

米の基本指針（案）に関する主なデータ等

令和 5 年 3 月
農林水産省農産局

目 次

○ 令和4/5年及び令和5/6年の主食用米等の需給見通し	2
○ 令和4年産水稻の収穫量	3
○ 水田における作付意向について（令和5年産第1回中間的取組状況）	4
○ 米の販売数量及び民間在庫の推移	7
○ 産地別民間在庫の状況	8
○ 相対取引価格の推移（平成22年産～令和4年産）	9
○ 令和4年産米の相対取引価格	10
○ 相対取引契約数量の推移	11
○ 令和3・4年産米のスポット価格の推移	12
○ 令和3～5年度の保管料等支援のイメージ	13
○ 政府備蓄米の運営について	14
○ 令和5年産備蓄米の政府買入入札の結果（令和5年2月15日現在）	15
○ MA米の輸入状況	17
○ 令和4年度のSBS米の輸入入札状況	18
○ TPP11におけるコメの豪州枠の運用	19

令和4/5年及び令和5/6年の主食用米等の需給見通し(令和4年10月公表 基本指針)

【令和4/5年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

令和4年6月末民間在庫量	A	218	--->	209	《9》
令和4年産主食用米等生産量	B	670	→	平年作: 669万トン	
令和4/5年主食用米等供給量計 C=A+B		888	--->	879	《9》
令和4/5年主食用米等需要量	D	691 ~ 697			
令和5年6月末民間在庫量 E=C-D		191 ~ 197	--->	182~188	《9》

令和2年産米のコロナ影響緩和と特別対策(特別枠)を除いた場合の見通し

R4年度と同程度の作付転換が必要

【令和5/6年の主食用米等の需給見通し】

(単位: 万トン)

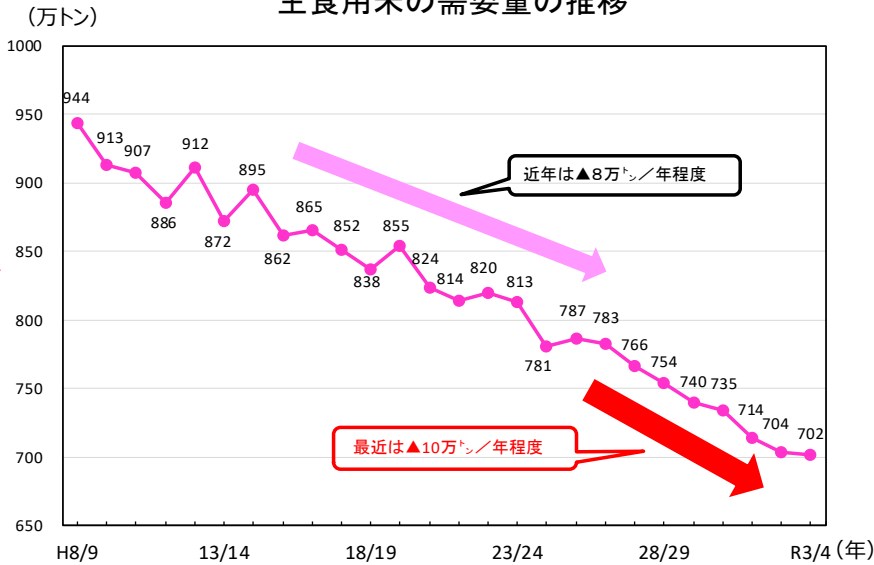
令和5年6月末民間在庫量	E	191 ~ 197
令和5年産主食用米等生産量	F	669
令和5/6年主食用米等供給量計 G=E+F		860 ~ 866
令和5/6年主食用米等需要量	H	680
令和6年6月末民間在庫量 I=G-H		180 ~ 186

注1：主食用米等需要量は、新型コロナウイルス感染症の状況や価格動向、コロナ影響緩和と特別対策(特別枠)の販売動向等によって、今後、変動する可能性がある。

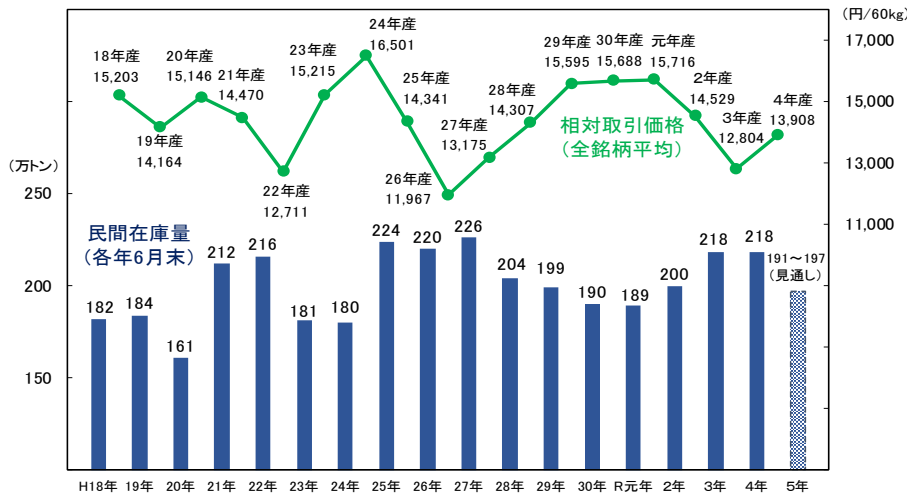
注2：欄外の記載は、コロナ影響緩和と特別対策(特別枠)に取り組む令和2年産米を除いた場合の見通しであり、《 》書きは特別枠に係る取組数量。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

主食用米の需要量の推移



相対取引価格と民間在庫量の推移



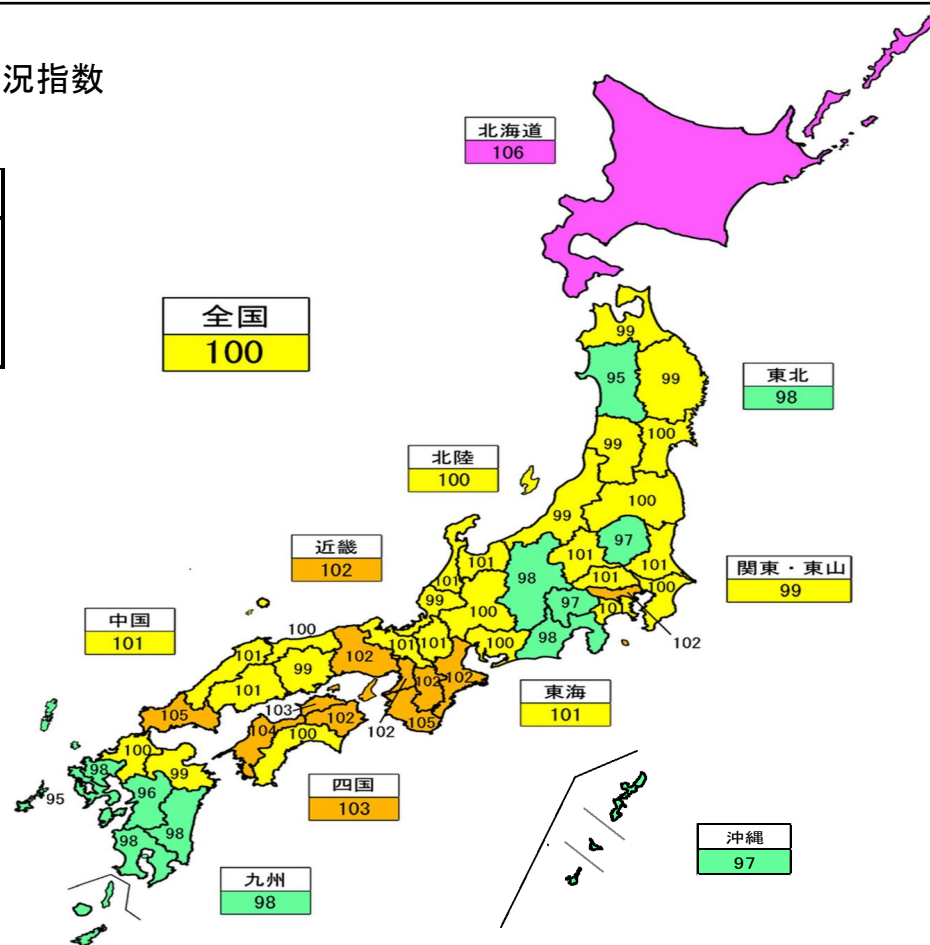
注：相対取引価格は、当該年産の出回りから翌年10月まで(令和4年産は出回りから5年1月までの通年平均価格であり、運賃、包装代、消費税相当額が含まれている(令和4年産は速報値))。

令和4年産水稻の収穫量

- 令和4年産水稻の作付面積（子実用）は135万5,000haで、前年産に比べ4万8,000ha減少した。うち主食用作付面積は125万1,000haで、前年産に比べ5万2,000ha減少した。
- 全国の10a当たり収量は536kg。
- 以上の結果、収穫量（子実用）は726万9,000tで、前年産に比べ29万4,000t減少した。うち主食用の収穫量は、670万1,000tで、前年産に比べ30万6,000t減少した。
- なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は100。

全国農業地域・都道府県別作況指数

作柄の良否（作況指数）	
	良（106以上）
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）



水田における作付意向について(令和5年産第1回中間的取組状況(令和5年1月末時点))①

- ・ 4年産実績との比較による各都道府県の主食用米の作付意向は、1月末時点では、減少傾向12県、前年並み35県、増加傾向0県。
- ・ 戦略作物については、麦、大豆で「前年より増加傾向」としている県が多い一方、飼料用米や加工用米では「前年並み」としている県が多い。
- ・ 農林水産省としては、各産地・生産者が、今回の公表結果を参考にして、需要に応じた生産・販売に向けた取組をより一層進めていくよう促していく。

【令和5年産米等の作付意向（前年産実績との比較、令和5年1月末時点）】

下段〔 〕は前年同時期の作付意向

	主食用米	戦略作物							備蓄米
		加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 〔稲発酵粗 飼料用稲〕	麦	大豆	
前年より 増加傾向	0県 〔0県〕	15県 〔16県〕	18県 〔20県〕	16県 〔22県〕	11県 〔32県〕	20県 〔17県〕	23県 〔24県〕	16県 〔24県〕	6県 〔7県〕
前年並み	35県 〔25県〕	27県 〔21県〕	18県 〔11県〕	24県 〔18県〕	25県 〔13県〕	21県 〔26県〕	14県 〔12県〕	15県 〔13県〕	22県 〔18県〕
前年より 減少傾向	12県 〔22県〕	2県 〔7県〕	3県 〔7県〕	5県 〔5県〕	10県 〔0県〕	4県 〔2県〕	8県 〔9県〕	14県 〔8県〕	5県 〔7県〕

注1：令和5年産の意向（増加傾向、前年並み傾向、減少傾向）は、4年産実績との比較。

2：比較している主食用米の4年産実績は、令和4年12月統計部公表の主食用作付面積。

3：加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲の4年産実績は、取組計画認定面積。

4：麦・大豆の4年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積（基幹作）。

5：備蓄米の4年産実績は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について(令和5年産第1回中間的取組状況(令和5年1月末時点))②

(ha)

都道府県	主食用米		戦略作物														備蓄米	
	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲発酵粗飼料用稲)		麦		大豆		4年産実績	5年産意向 (対前年実績)
			4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)		
全国計	125.1万		49,785		7,248		8,403		142,055		48,404		106,275		88,568		36,479	
北海道	82,500	→	6,804	↗	1,359	↘	92	↗	7,094	→	900	↗	37,248	↘	19,246	↘	2,707	↘
青森	33,900	→	924	↗	293	↗	6	↗	9,085	↘	767	↗	554	↗	4,758	↗	4,513	↗
岩手	43,700	↘	1,361	↗	345	→	76	↘	5,830	↗	2,234	↗	3,325	↗	4,073	→	653	↘
宮城	57,000	→	653	→	727	↗	155	↗	10,416	↘	2,672	↗	1,727	↗	10,128	↗	2,155	→
秋田	69,100	→	8,820	↗	380	↗	429	↗	5,279	↘	1,172	→	165	→	8,610	→	3,714	→
山形	52,700	→	4,715	→	373	→	119	→	5,236	↗	1,115	→	85	↘	4,621	→	3,620	↘
福島	51,900	→	382	→	82	↗	13	↘	12,631	→	1,078	→	291	↗	786	↘	5,408	→
茨城	58,300	→	987	→	452	↗	59	↗	14,375	↗	603	→	4,221	↗	592	↘	207	→
栃木	46,100	↘	1,807	→	44	↗	1,448	↗	15,716	↘	2,012	↗	6,855	→	635	↗	1,384	↗
群馬	12,400	→	1,439	→	0	→	372	→	1,575	→	584	→	2,112	→	114	↘	111	→
埼玉	27,400	→	166	↗	45	↗	851	→	3,771	↘	136	↗	2,050	↗	393	↗	92	→
千葉	45,500	→	1,444	↗	12	↗	131	↗	10,706	→	1,129	↗	435	↗	273	↘	706	→
東京	115	→	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川	2,880	→	-	-	-	-	-	-	11	→	0	→	3	↘	7	↘	-	-
新潟	99,900	→	7,627	↗	1,513	↗	2,285	↘	4,578	↘	433	↗	125	↗	3,907	↗	4,558	↗
富山	31,300	→	1,166	↗	363	↗	249	↗	2,149	→	457	→	3,047	→	3,751	↗	2,393	→
石川	20,700	→	448	→	43	→	378	→	1,767	↘	109	→	1,017	↗	977	→	1,488	→
福井	21,600	→	273	↗	141	↗	192	↗	2,078	↘	121	↗	5,023	↗	108	↗	1,257	→
山梨	4,690	→	67	→	-	-	28	→	21	↗	16	↗	63	→	101	↘	-	-
長野	29,800	→	631	↗	174	↗	24	→	512	↘	245	↘	2,552	↘	646	→	232	→
岐阜	20,000	→	493	→	19	↘	58	→	3,712	→	252	↗	3,590	↗	365	↗	94	→
静岡	15,000	→	79	↗	1	→	6	↗	1,191	↘	317	↘	241	→	51	↘	4	→
愛知	25,200	→	448	→	44	→	53	→	2,450	→	179	↘	5,280	↗	251	↘	165	→
三重	25,200	→	171	→	33	→	95	→	2,497	→	284	→	6,880	→	163	→	53	↗

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「5年産意向(対前年実績)」は、4年産実績と比較し、「↗:増加傾向」(1%超増加)、「→:前年並み」(増減1%以内)、「↘:減少傾向」(1%超減少)で分類。

(注2) 主食用米の「4年産実績」は、4年12月統計部公表の主食用作付面積。

(注3) 加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲の「4年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「4年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

(注4) 備蓄米の「4年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

水田における作付意向について(令和5年産第1回中間的取組状況(令和5年1月末時点))③

(ha)

都道府県	主食用米		戦略作物												備蓄米	
	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	加工用米		新市場開拓用米 (輸出用米等)		米粉用米		飼料用米		WCS用稲 (稲免酵母飼料用稲)		麦		大豆	
			4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)	4年産実績	5年産意向 (対前年実績)
滋賀	27,700	→	685	→	209	↗	56	↗	2,090	→	293	↘	7,851	→	465	↗
京都	13,400	↘	564	↗	22	↗	10	↗	140	↗	135	↗	281	↗	282	↗
大阪	4,540	↘	0	→	-	-	5	→	6	→	-	-	2	→	7	→
兵庫	32,800	→	707	→	190	→	35	↗	761	↗	940	→	1,874	↗	1,713	→
奈良	8,350	→	14	→	-	-	45	→	64	→	39	→	61	→	24	→
和歌山	5,980	→	-	-	-	-	1	→	3	→	3	↗	4	↘	13	↘
鳥取	12,000	→	22	→	20	→	1	→	837	→	365	→	65	→	612	→
島根	16,100	↘	294	↘	2	→	6	↗	866	→	630	↗	261	↗	607	→
岡山	27,100	→	308	→	158	→	131	→	2,002	→	415	↗	1,189	↘	1,163	↘
広島	21,100	↘	351	→	25	→	129	↘	518	→	614	↗	315	↗	249	↗
山口	16,600	→	979	→	65	→	38	→	1,109	→	347	↗	703	↗	825	→
徳島	9,640	↘	20	→	40	↗	11	→	1,017	↗	227	→	54	↗	8	→
香川	10,800	↘	47	↗	5	↗	8	↘	162	↗	172	↗	1,255	↗	60	↘
愛媛	13,000	→	29	↗	-	-	6	→	299	↗	184	↗	432	→	344	↗
高知	10,600	→	78	→	5	↘	22	→	1,079	→	284	→	5	→	63	→
福岡	32,800	→	224	↘	9	↗	334	↗	2,482	→	1,837	↗	1,178	↗	7,806	↗
佐賀	22,300	→	397	→	5	→	35	→	821	→	2,000	→	2,275	↘	5,474	↗
長崎	10,400	↘	7	→	5	→	5	→	121	→	1,384	→	98	↘	285	↗
熊本	30,200	↘	668	→	19	→	359	→	1,672	→	8,519	→	784	→	2,127	↗
大分	18,800	↘	114	↗	-	↗	16	→	1,802	→	2,589	→	612	↗	1,338	↘
宮崎	13,400	→	1,909	→	23	→	17	↗	687	↗	6,933	→	18	↗	221	↘
鹿児島	16,600	↘	1,432	→	1	→	14	→	835	↗	3,667	→	72	↗	325	→
沖縄	604	→	33	→	-	-	2	→	1	→	12	→	-	-	-	-

(注1) 主食用米、戦略作物及び備蓄米の「5年産意向(対前年実績)」は、4年産実績と比較し、「↗:増加傾向」(1%超増加)、「→:前年並み」(増減1%以内)、「↘:減少傾向」(1%超減少)で分類。

(注2) 主食用米の「4年産実績」は、4年12月統計部公表の主食用作付面積。

(注3) 加工用米、新市場開拓用米、米粉用米、飼料用米、WCS用稲の「4年産実績」は、取組計画認定面積。麦・大豆の「4年産実績」は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に聞き取った面積(基幹作)。

(注4) 備蓄米の「4年産実績」は、地域農業再生協議会が把握した面積。

米の販売数量及び民間在庫の推移(令和5年1月)

- 主食用米の需要が1人当たりの消費量や人口減少等の影響により毎年約10万ト(約1.4%)程度減少すると見込まれる中、直近1年間(令和4年1月~12月)の対前年比は、小売事業者向けで▲2%、中食・外食事業者向けは+4%となっており、販売数量の計では+1%となっている。
- 令和5年1月末現在の全国の民間在庫は、出荷・販売段階の計で対前年同月比▲20万トンの306万トンとなっており、出荷段階は対前年同月比▲20万トンの260万トン、販売段階は対前年同月比±0万トンの46万トン

【米穀販売事業者における販売数量の動向(前年同月比)】

	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年1月 ~12月計	5年 1月
小売事業者向け	97%	95%	99%	99%	97%	100%	96%	98%	97%	98%	100%	102%	98%	100%
(※令和元年との比較)	(105%)	(102%)	(103%)	(100%)	(101%)	(102%)	(98%)	(104%)	(98%)	(97%)	(99%)	(104%)	(101%)	(104%)
中食・外食事業者等向け	105%	101%	101%	103%	106%	104%	101%	109%	109%	104%	100%	100%	104%	103%
(※令和元年との比較)	(90%)	(88%)	(92%)	(94%)	(93%)	(96%)	(92%)	(93%)	(98%)	(95%)	(94%)	(96%)	(94%)	(93%)
販売数量計	101%	98%	100%	101%	101%	102%	98%	103%	102%	101%	100%	101%	101%	101%
(※令和元年との比較)	(97%)	(95%)	(98%)	(97%)	(97%)	(99%)	(95%)	(98%)	(98%)	(96%)	(97%)	(100%)	(98%)	(99%)

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:報告対象業者は、年間玄米仕入数量50,000ト以上の販売事業者(年間取扱数量約150万ト(令和4年産主食用米等の生産量670万トの約2割))である。
2:上記の数値については、報告対象者が販売している精米の全体の価格・数量の動向を指数化したものであり、個別の取引や産地銘柄毎の動向を表すものではない。
3:速報値であるため、公表後の数値修正が生じる場合がある。
4:令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、各月ごとの消費動向に大きな変動が生じていることから、参考として令和元年(4月までは平成31年)の同月との比較をした値を記載。

【購入数量の推移(家計調査)】

(単位:Kg、%)

	4年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4年1月 ~12月計
購入数量	3.95	4.14	4.65	4.54	4.38	4.28	4.35	4.35	6.03	7.24	4.59	4.85	57.38
前年比	100.8%	100.5%	93.2%	94.4%	89.8%	90.5%	100.7%	85.5%	96.3%	97.6%	89.6%	92.9%	94.4%

資料:総務省「家計調査」家計収支編 二人以上の世帯

【民間在庫量の推移(出荷+販売段階)】

(単位:万玄米トン)

		当年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月
3 / 4 年	出荷+販売段階	138	118	214	330	351	349	326	299	270	238	204	172
	出荷段階	106	90	178	277	298	296	279	256	226	196	169	139
	販売段階	32	28	36	53	53	53	46	43	44	42	35	32
4 / 5 年	出荷+販売段階	142	122	200	313	330	328	306					
	対前年差	+3	+4	▲14	▲18	▲21	▲21	▲20					
	出荷段階	116	97	166	262	277	277	260					
	対前年差	+10	+8	▲12	▲15	▲21	▲19	▲20					
	販売段階	26	25	33	50	52	51	46					
	対前年差	▲6	▲4	▲3	▲3	▲1	▲1	+0					

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」
注1:水稲うるちも及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。
2:報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。
3:期間については、4/5年であれば、令和4年7月~5年6月である。

産地別民間在庫の状況(令和5年1月)

(単位:千玄米トン)

	3年 12月 ① (千玄米トン)	4年 1月 ② (千玄米トン)	4年 12月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	5年 1月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
北海道	404.3	383.2	341.9	▲ 62.5	▲ 15.4%	324.0	▲ 59.2	▲ 15.4%
青森	168.9	151.9	147.1	▲ 21.9	▲ 12.9%	141.8	▲ 10.1	▲ 6.7%
岩手	169.8	159.9	160.4	▲ 9.5	▲ 5.6%	146.7	▲ 13.2	▲ 8.3%
宮城	206.9	201.7	178.5	▲ 28.4	▲ 13.7%	172.0	▲ 29.7	▲ 14.7%
秋田	296.5	276.3	255.8	▲ 40.8	▲ 13.8%	230.5	▲ 45.9	▲ 16.6%
山形	217.2	200.4	196.5	▲ 20.7	▲ 9.5%	180.6	▲ 19.9	▲ 9.9%
福島	191.4	174.5	168.9	▲ 22.5	▲ 11.7%	156.9	▲ 17.6	▲ 10.1%
茨城	143.8	133.4	140.4	▲ 3.4	▲ 2.4%	130.8	▲ 2.6	▲ 2.0%
栃木	195.9	183.9	167.3	▲ 28.6	▲ 14.6%	156.5	▲ 27.4	▲ 14.9%
群馬	27.9	24.1	29.2	+ 1.3	+ 4.7%	29.8	+ 5.7	+ 23.7%
埼玉	40.6	37.1	42.1	+ 1.4	+ 3.5%	40.0	+ 2.9	+ 7.8%
千葉	89.2	80.0	70.4	▲ 18.8	▲ 21.1%	62.6	▲ 17.4	▲ 21.7%
東京	0.0	0.0	0.0	+ 0.0	-	0.0	+ 0.0	-
神奈川	2.0	1.7	2.5	+ 0.5	+ 27.1%	2.2	+ 0.5	+ 27.4%
山梨	4.8	4.5	5.0	+ 0.2	+ 4.5%	4.7	+ 0.3	+ 5.6%
長野	72.5	66.2	75.6	+ 3.0	+ 4.2%	68.2	+ 2.0	+ 3.0%
静岡	18.0	14.7	20.0	+ 1.9	+ 10.8%	17.0	+ 2.3	+ 15.4%
新潟	266.7	241.4	266.2	▲ 0.5	▲ 0.2%	241.2	▲ 0.2	▲ 0.1%
富山	97.4	88.9	93.4	▲ 4.0	▲ 4.1%	86.0	▲ 2.9	▲ 3.3%
石川	67.3	61.1	67.6	+ 0.3	+ 0.5%	62.1	+ 1.0	+ 1.6%
福井	59.3	54.0	55.1	▲ 4.2	▲ 7.0%	50.3	▲ 3.7	▲ 6.9%
岐阜	29.5	27.5	33.9	+ 4.4	+ 14.9%	31.3	+ 3.8	+ 14.0%
愛知	39.4	36.1	39.1	▲ 0.3	▲ 0.7%	37.7	+ 1.6	+ 4.3%
三重	38.6	36.1	38.8	+ 0.1	+ 0.4%	35.3	▲ 0.9	▲ 2.4%

	3年 12月 ① (千玄米トン)	4年 1月 ② (千玄米トン)	4年 12月 ③ (千玄米トン)	対前年 同月差 ④=③-① (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑤=④/① (%)	5年 1月 ⑥ (千玄米トン)	対前年 同月差 ⑦=⑥-② (千玄米トン)	対前年 同月比 ⑧=⑦/② (%)
滋賀	60.9	57.4	59.3	▲ 1.6	▲ 2.6%	53.9	▲ 3.5	▲ 6.2%
京都	12.4	11.2	12.3	▲ 0.1	▲ 1.1%	11.6	+ 0.4	+ 3.2%
大阪	2.0	1.7	2.6	+ 0.5	+ 25.2%	2.3	+ 0.7	+ 40.2%
兵庫	41.2	38.5	49.5	+ 8.3	+ 20.2%	40.8	+ 2.3	+ 5.9%
奈良	9.8	9.1	12.4	+ 2.6	+ 26.2%	11.7	+ 2.6	+ 28.2%
和歌山	1.0	1.0	2.4	+ 1.3	+ 128.5%	2.6	+ 1.6	+ 167.1%
鳥取	29.6	33.5	29.8	+ 0.2	+ 0.8%	29.1	▲ 4.4	▲ 13.1%
島根	30.6	29.8	31.3	+ 0.7	+ 2.4%	29.8	▲ 0.1	▲ 0.2%
岡山	42.1	43.2	43.4	+ 1.3	+ 3.1%	42.5	▲ 0.7	▲ 1.6%
広島	39.0	36.0	43.3	+ 4.3	+ 11.0%	40.1	+ 4.1	+ 11.4%
山口	33.3	31.8	41.5	+ 8.2	+ 24.7%	38.9	+ 7.1	+ 22.2%
徳島	11.7	10.6	10.9	▲ 0.8	▲ 6.6%	9.6	▲ 1.0	▲ 9.3%
香川	25.7	24.2	18.9	▲ 6.8	▲ 26.3%	17.5	▲ 6.7	▲ 27.5%
愛媛	12.4	11.5	16.1	+ 3.7	+ 29.7%	15.5	+ 4.0	+ 35.1%
高知	9.4	8.7	10.4	+ 1.0	+ 10.8%	9.7	+ 0.9	+ 10.8%
福岡	68.7	64.4	73.8	+ 5.1	+ 7.5%	71.6	+ 7.3	+ 11.3%
佐賀	27.7	29.5	30.0	+ 2.4	+ 8.5%	31.1	+ 1.6	+ 5.3%
長崎	9.8	9.9	10.3	+ 0.5	+ 5.2%	10.0	+ 0.1	+ 1.5%
熊本	49.4	46.8	52.2	+ 2.8	+ 5.7%	52.5	+ 5.7	+ 12.2%
大分	20.6	19.3	22.0	+ 1.4	+ 7.0%	20.2	+ 0.8	+ 4.3%
宮崎	13.9	14.2	15.7	+ 1.8	+ 13.2%	14.6	+ 0.3	+ 2.3%
鹿児島	22.5	22.0	25.6	+ 3.0	+ 13.4%	24.4	+ 2.4	+ 11.1%
沖縄	0.3	0.2	0.2	▲ 0.1	▲ 26.0%	0.2	▲ 0.1	▲ 24.5%
全国	349万ト	326万ト	328万ト	▲21万ト	▲ 5.9%	306万ト	▲20万ト	▲ 6.1%

資料:農林水産省「米穀の取引に関する報告」

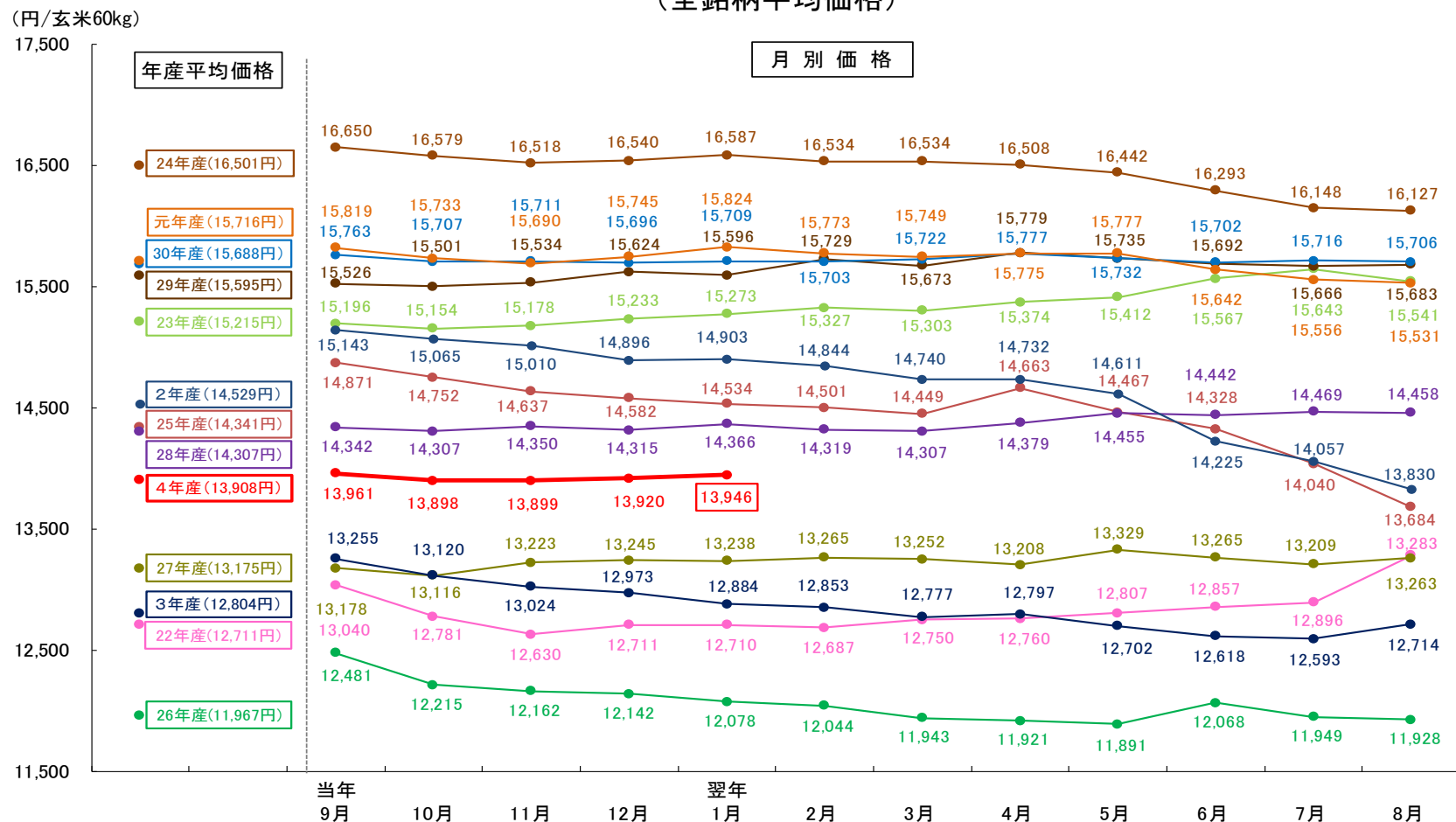
注:1 水稲うるちもみ及び水稲うるち玄米(醸造用玄米を含む。)の月末在庫量(玄米換算)の値である。

2 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体(年間の玄米仕入数量が5,000トン以上)、出荷業者(年間の玄米仕入量が500トン以上)、米穀の販売の事業を行う者(年間の玄米仕入量が4,000トン以上)である。

相対取引価格の推移(平成22年産～令和4年産)

○ 令和4年産米の令和5年1月の相対取引価格は、全銘柄平均で前月差+26円の13,946円/60kgとなり、出回りからの年産平均価格は前年産+1,104円の13,908円/60kgとなったところ。

相対取引価格の推移(税込)
(全銘柄平均価格)



資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」

注1：運賃、包装代、消費税相当額(平成26年3月までは5%、元年9月までは8%、元年10月以降は10%、ただし軽減税率対象は8%)を含む1等米の価格である。

2：グラフの左側は各年産の通年平均価格(当該年産の出回りから翌年10月まで(4年産は出回り～令和5年1月までの速報値))、右側は月ごとの価格の推移。

令和4年産米の相対取引価格(令和5年1月の年産平均価格)

産地品種銘柄		令和4年産 〔出回り～ 5年1月〕 ①	令和3年産 〔出回り～ 4年10月〕 ②	価格差 ①－②
北海道	ななつぼし	13,779	12,687	+ 1,092
北海道	ゆめぴりか	15,773	15,451	+ 322
北海道	きらら397	13,603	11,955	+ 1,648
青森	ましろぐら	12,769	10,770	+ 1,999
青森	つがるロマン	13,102	11,315	+ 1,787
岩手	ひとめぼれ	13,618	12,460	+ 1,158
岩手	あきたこまち	13,401	11,785	+ 1,616
岩手	銀河のしずく	14,066	13,480	+ 586
宮城	ひとめぼれ	13,866	12,660	+ 1,206
宮城	つや姫	14,396	12,785	+ 1,611
宮城	ササニシキ	14,172	12,599	+ 1,573
秋田	あきたこまち	13,884	12,756	+ 1,128
秋田	めんこいな	12,919	11,633	+ 1,286
秋田	ひとめぼれ	13,041	11,695	+ 1,346
山形	はえぬき	13,221	12,074	+ 1,147
山形	つや姫	18,609	18,376	+ 233
山形	雪若丸	14,194	12,927	+ 1,267
福島	コシヒカリ(中通り)	12,580	11,006	+ 1,574
福島	コシヒカリ(会津)	14,815	14,033	+ 782
福島	コシヒカリ(浜通り)	13,186	11,589	+ 1,597
福島	ひとめぼれ	12,435	11,022	+ 1,413
福島	天のつぶ	12,398	10,935	+ 1,463
茨城	コシヒカリ	13,078	11,423	+ 1,655
茨城	あきたこまち	12,194	11,136	+ 1,058
茨城	ぶくまる	12,426	-	-
栃木	コシヒカリ	13,587	11,817	+ 1,770
栃木	とちぎの星	12,496	10,371	+ 2,125
栃木	あさひの夢	12,392	10,540	+ 1,852
群馬	あさひの夢	13,262	10,636	+ 2,626
群馬	ゆめまつり	12,786	10,581	+ 2,205
埼玉	彩のかがやき	12,533	11,085	+ 1,448
埼玉	彩のきずな	12,986	11,019	+ 1,967
埼玉	コシヒカリ	13,194	11,312	+ 1,882
千葉	コシヒカリ	12,617	11,387	+ 1,230
千葉	ふさこがね	11,420	10,207	+ 1,213
千葉	ふさおとめ	11,417	10,623	+ 794
山梨	コシヒカリ	17,713	17,754	▲ 41
長野	コシヒカリ	15,298	13,702	+ 1,596
長野	あきたこまち	14,258	13,456	+ 802
静岡	コシヒカリ	14,527	14,424	+ 103

産地品種銘柄		令和4年産 〔出回り～ 5年1月〕 ①	令和3年産 〔出回り～ 4年10月〕 ②	価格差 ①－②
静岡	きぬむすめ	-	12,342	-
静岡	あいちのかおり	-	12,586	-
新潟	コシヒカリ(一般)	16,615	15,583	+ 1,032
新潟	コシヒカリ(魚沼)	21,072	20,426	+ 646
新潟	コシヒカリ(佐渡)	17,218	16,183	+ 1,035
新潟	コシヒカリ(岩船)	17,000	16,055	+ 945
新潟	こしいぶき	13,314	12,541	+ 773
富山	コシヒカリ	15,013	13,774	+ 1,239
富山	てんたかく	13,654	12,361	+ 1,293
石川	コシヒカリ	14,983	13,127	+ 1,856
石川	ゆめみづほ	13,237	11,505	+ 1,732
福井	コシヒカリ	14,007	13,478	+ 529
福井	ハナエチゼン	12,476	11,254	+ 1,222
福井	あきさかり	12,822	11,555	+ 1,267
岐阜	ハツシメ	13,688	12,657	+ 1,031
岐阜	コシヒカリ	14,957	14,065	+ 892
岐阜	ほしじろし	13,508	-	-
愛知	あいちのかおり	12,742	12,101	+ 641
愛知	コシヒカリ	13,635	12,719	+ 916
愛知	大地の風	-	11,792	-
三重	コシヒカリ(一般)	13,261	12,472	+ 789
三重	コシヒカリ(伊賀)	13,675	13,041	+ 634
三重	キヌヒカリ	12,033	10,911	+ 1,122
滋賀	コシヒカリ	14,001	13,647	+ 354
滋賀	キヌヒカリ	12,399	11,856	+ 543
滋賀	みずかがみ	13,517	13,280	+ 237
京都	コシヒカリ	14,494	13,543	+ 951
京都	キヌヒカリ	13,196	12,410	+ 786
京都	ヒノヒカリ	15,137	15,237	▲ 100
兵庫	コシヒカリ	15,083	13,869	+ 1,214
兵庫	ヒノヒカリ	12,419	11,939	+ 480
兵庫	キヌヒカリ	12,412	11,885	+ 527
奈良	ヒノヒカリ	12,960	12,535	+ 425
鳥取	きぬむすめ	12,657	11,873	+ 784
鳥取	コシヒカリ	13,424	12,896	+ 528
鳥取	ひとめぼれ	12,803	12,118	+ 685
島根	きぬむすめ	13,129	12,365	+ 764
島根	コシヒカリ	14,011	13,557	+ 454
島根	つや姫	13,850	13,092	+ 758
岡山	アケボノ	11,117	10,883	+ 234

(単位: 円/玄米60kg (税込))

産地品種銘柄		令和4年産 〔出回り～ 5年1月〕 ①	令和3年産 〔出回り～ 4年10月〕 ②	価格差 ①－②
岡山	きぬむすめ	12,153	11,541	+ 612
岡山	コシヒカリ	13,184	12,545	+ 639
広島	コシヒカリ	13,550	13,493	+ 57
広島	あきさかり	12,416	12,618	▲ 202
広島	あきろまん	12,524	12,883	▲ 359
山口	コシヒカリ	13,999	13,338	+ 661
山口	ひとめぼれ	13,039	12,250	+ 789
山口	ヒノヒカリ	12,940	11,980	+ 960
徳島	コシヒカリ	12,980	12,251	+ 729
徳島	あきさかり	11,477	11,021	+ 456
香川	コシヒカリ	14,213	13,386	+ 827
香川	ヒノヒカリ	13,457	12,544	+ 913
香川	おいでまい	14,213	13,269	+ 944
愛媛	コシヒカリ	13,180	13,977	▲ 797
愛媛	ヒノヒカリ	12,859	12,790	+ 69
愛媛	あきたこまち	12,667	12,993	▲ 326
高知	コシヒカリ	13,494	13,562	▲ 68
高知	ヒノヒカリ	12,801	13,062	▲ 261
福岡	夢つくし	14,775	14,724	+ 51
福岡	ヒノヒカリ	13,111	13,017	+ 94
福岡	元気つくし	14,719	14,521	+ 198
佐賀	さがびより	14,214	13,975	+ 239
佐賀	夢しずく	13,521	13,206	+ 315
佐賀	ヒノヒカリ	12,485	11,696	+ 789
長崎	にこまる	12,840	14,027	▲ 1,187
長崎	ヒノヒカリ	12,537	13,707	▲ 1,170
長崎	なつほのか	12,615	-	-
熊本	ヒノヒカリ	12,874	13,235	▲ 361
熊本	森のくまさん	12,790	13,199	▲ 409
熊本	コシヒカリ	13,926	15,088	▲ 1,162
大分	ヒノヒカリ	13,583	13,107	+ 476
大分	ひとめぼれ	13,053	13,804	▲ 751
大分	つや姫	14,128	13,751	+ 377
宮崎	コシヒカリ	13,815	14,135	▲ 320
宮崎	ヒノヒカリ	-	15,471	-
鹿児島	ヒノヒカリ	13,819	13,974	▲ 155
鹿児島	あきほなみ	14,521	14,822	▲ 301
鹿児島	コシヒカリ	14,193	14,702	▲ 509
全銘柄平均価格		13,908	12,804	+ 1,104

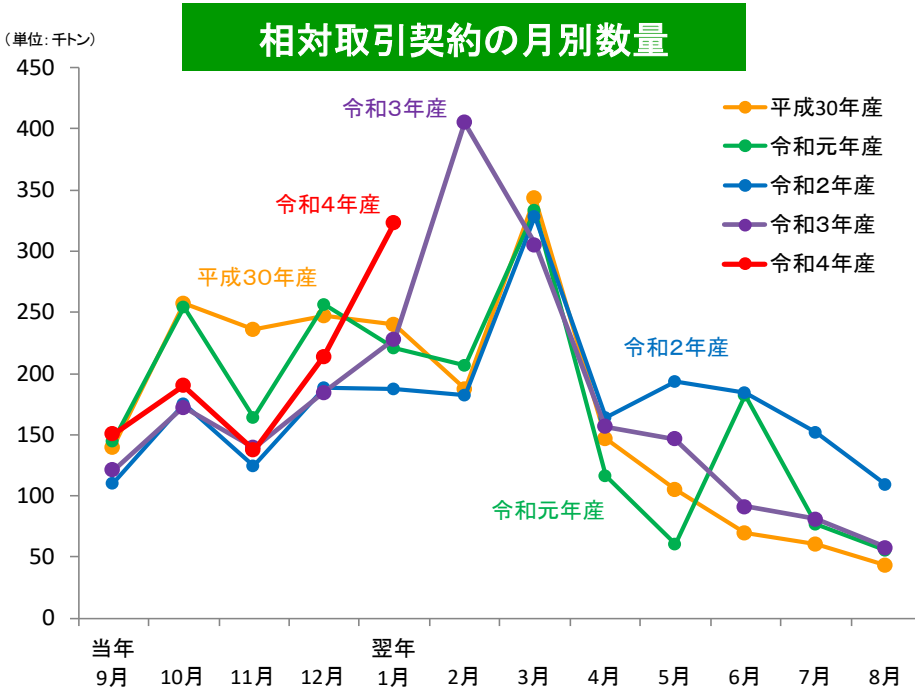
注1:農林水産省が調査・公表した出回りからの年産平均価格(令和4年産は出回りから5年1月までの速報値)であり、調査対象事業者は、一定規模以上の集荷業者(年間の販売数量5,000トン以上等)。

2:運賃、包装代、消費税相当額を含む1等米の価格である。なお、価格に含む消費税は、軽減税率の対象である米穀の包装代などの品代等は8%、運賃等は10%で算定している。

3:「-」については、当該年産において報告対象としていない産地品種銘柄又は取引数量の累計が100トン未満であり、公表を行っていないもの。

相対取引契約数量の推移

○ 令和4年産米の令和5年1月の相対取引契約数量は、32.4万トンとなり、出回りからの契約数量は前年同期差+16.9万トンの104.0万トンとなったところ。

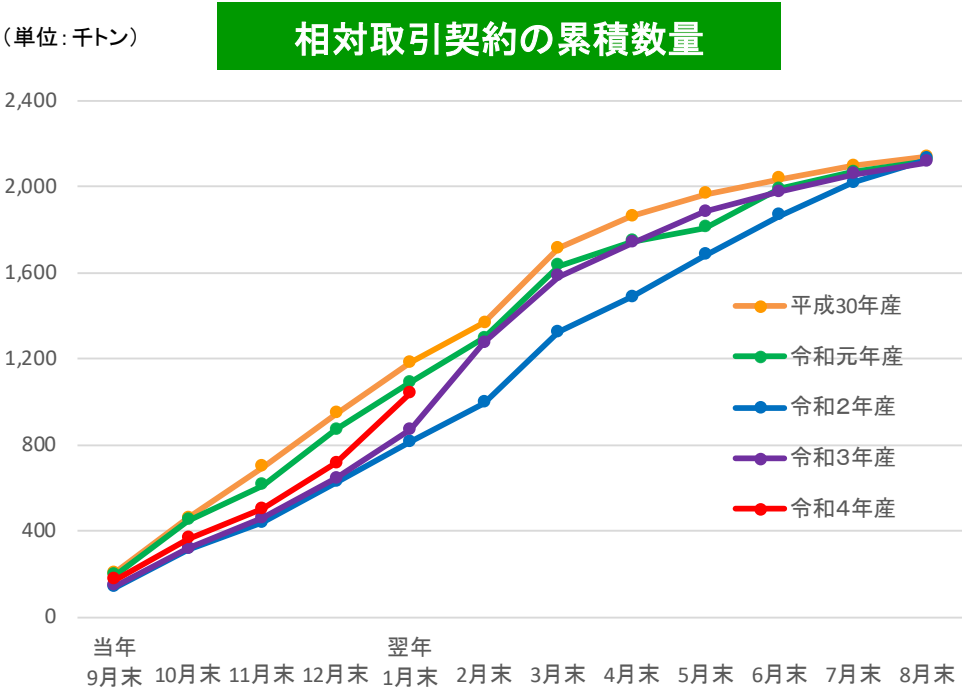


(単位:千トン)

年産	当年 9月	10月	11月	12月	翌年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	年産計
平成30年産	140	258	236	247	240	187	343	147	105	70	61	44	2,193
令和元年産	145	254	164	257	221	207	334	117	61	183	76	55	2,191
令和2年産	110	175	125	188	187	183	328	164	194	185	152	109	2,267
令和3年産	121	172	140	185	228	405	305	157	147	91	81	58	2,207
令和4年産	151	190	137	214	324								

資料： 農林水産省「米穀の取引に関する報告」

- 注： 1 報告対象業者は、全農、道県経済連、県単一農協、道県出荷団体（年間の玄米仕入数量が5,000トン以上）、出荷業者（年間の直接販売数量が5,000トン以上）である。
2 相対取引契約数量は、出荷業者と卸売業者等との間で数量と価格が決定された主食用の相対取引契約の数量の合計（4年産は速報値）であり、公表後の契約変更等を含む。
3 相対取引契約数量の年産計欄は、出回りから生産年の翌年10月までの数量であるため、各月の合計と一致しない。



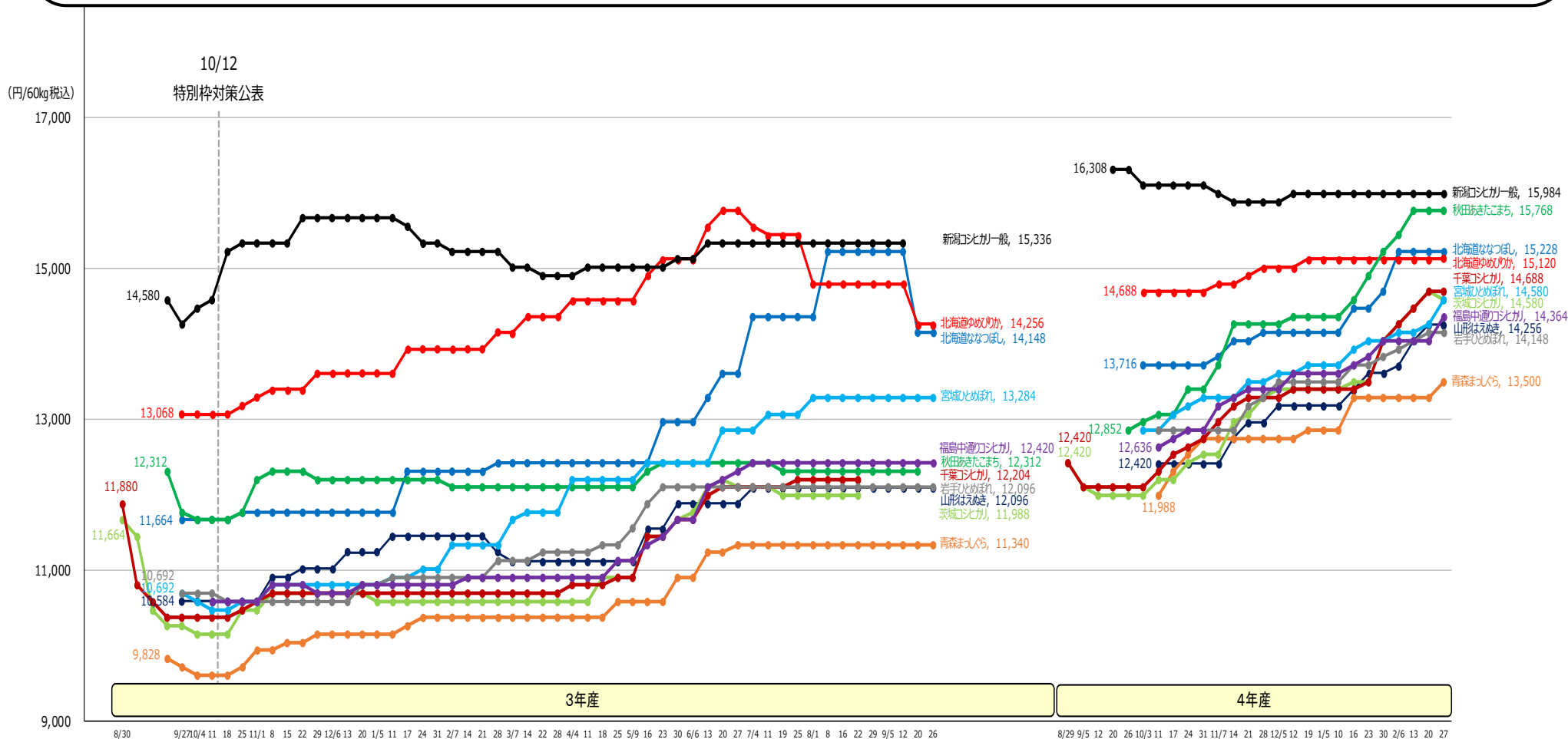
(単位:千トン)

年産	当年 9月末	10月末	11月末	12月末	翌年 1月末	2月末	3月末	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末	年産計
平成30年産	204	461	698	945	1,184	1,372	1,715	1,862	1,967	2,036	2,097	2,141	2,193
令和元年産	195	450	614	870	1,091	1,298	1,631	1,748	1,809	1,991	2,068	2,123	2,191
令和2年産	138	314	438	627	814	997	1,325	1,489	1,683	1,867	2,019	2,128	2,267
令和3年産	147	319	458	643	871	1,276	1,582	1,739	1,885	1,977	2,058	2,116	2,207
令和4年産	175	365	502	716	1,040								

(参考) 令和3・4年産米のスポット価格の推移(令和5年2月27日時点)

- 令和3年産のスポット価格については、2年産の出来秋に比べ低い水準で取引がスタートしたが、10月中旬以降回復基調で推移。特に令和4年6月以降は、3年産米の契約が進展した中でさらに上昇。
- 令和4年産のスポット価格については、3年産の出来秋に比べ高い水準でスタート。比較的安価な銘柄を中心に上昇傾向で推移。

(参考) スポット取引：主に中小規模の卸売業者間で行う、10トン～数十トン程度の小ロットの売買。

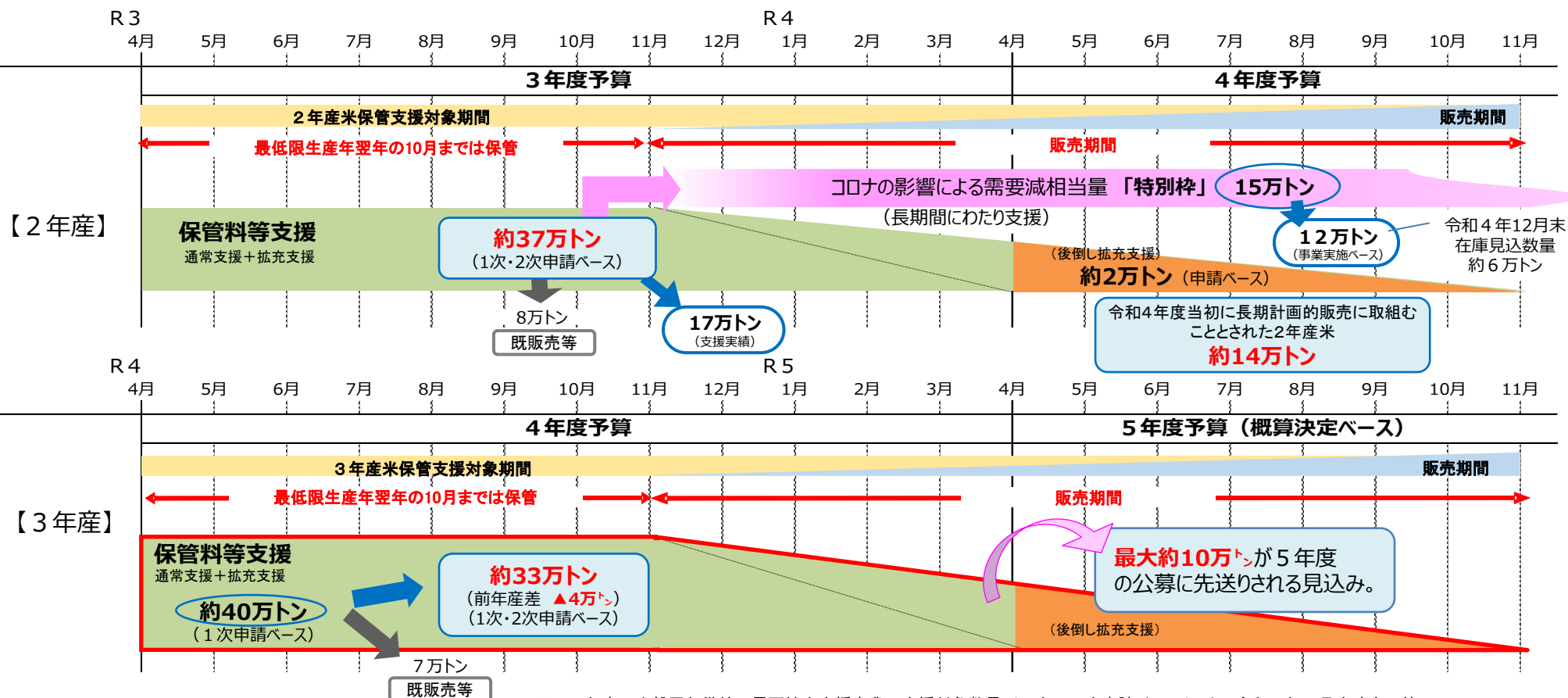


注: スポット価格は、米穀データバンク発行「日刊・米穀市況速報」(関東相場、東京着地基準、下限値、税抜)の価格を農林水産省が税込に加工。

令和3～5年度の保管料等支援のイメージ（「米穀周年供給・需要拡大支援事業」及び「コロナ影響緩和特別対策」）

- 令和3年産米の「米穀周年供給・需要拡大支援事業」については、1次公募の取組申請数量が約40万トンと依然として高い水準となったことから、保管料等の支援対象期間を令和5年10月末まで延長する拡充支援を措置し、昨年12月から本年1月にかけて2次公募を実施。
- 2次公募においては、19の事業体から応募があり、結果として令和3年産米の長期計画的な販売の取組は、昨年同時期の取組（申請ベース）に比べ▲4万トンの約33万トンの申請となったところ。

【保管経費等の拡充支援イメージ】



※ 3年産の米穀周年供給・需要拡大支援事業の支援対象数量（1次・2次申請ベース）は、令和5年1月末時点の値。

※ 保管料等の支援対象経費
 保管料：米穀の保管経費
 金利：販売時期が遅れることにより増加する概算金支払に係る借入金の支払利息
 集約経費：対象米穀の営業倉庫等への集約運送に要する経費

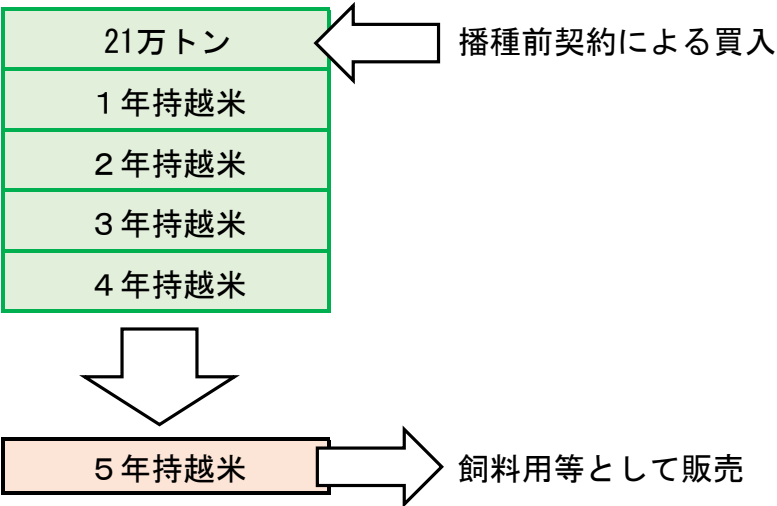
政府備蓄米の運営について

- 政府米の備蓄については、適正備蓄水準を100万トン程度として運用（10年に1度の不作（作況92）や、通常程度の不作（作況94）が2年連続した事態にも国産米をもって対処し得る水準）。
- 備蓄運営については、政府による買入・売渡が市場へ与える影響を避けるため、通常は主食用途に備蓄米の販売を行わない棚上備蓄を実施（備蓄米を供給するのは、大不作などの場合のみ）。
- 基本的な運用としては、適正備蓄水準100万トン程度を前提とし、毎年播種前に21万トン（※）程度買入れ、通常は5年持越米となった段階で、飼料用等として販売。

※ 基本的な買入数量については、従来、毎年20万トン程度としてきたが、現在は、CPTPP協定による豪州産の輸入量に相当する量を加えた21万トン程度として運用。
なお、豪州産の取扱いについて、会計検査院の指摘を踏まえ、今後、実際に豪州から輸入される数量に見合った規模の買入れとなるよう対応していく考え。

基本的な政府備蓄米の運用

原則21万トン程度 × 5年間程度 → 100万トン程度

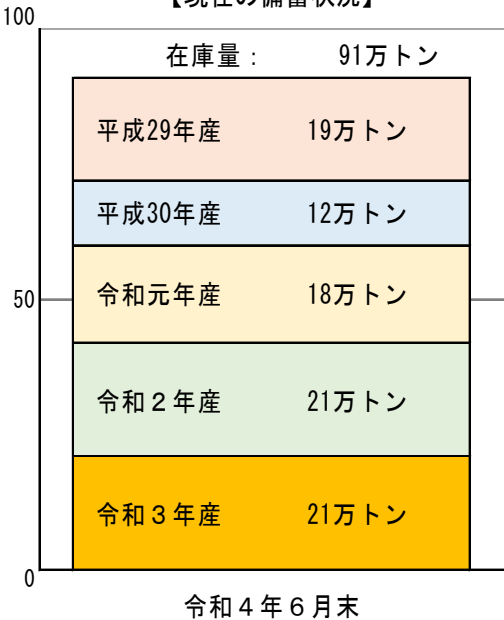


政府備蓄米の現在の在庫状況

【最近の買入数量】

平成29年産	19万トン
平成30年産	12万トン
令和元年産	18万トン
令和2年産	21万トン
令和3年産	21万トン
令和4年産	21万トン（予定）

【現在の備蓄状況】



注：ラウンドの関係で在庫量と内訳が一致しない場合がある。

令和5年産備蓄米の政府買入入札の結果(令和5年2月15日現在)

○ 令和5年産備蓄米の政府買入入札については、令和5年2月14日に第2回を実施し、買入予定数量20万8,000トンに対して18万7,924トンの落札となっている。(第3回の入札日は3月7日を予定。)

※令和5年産落札数量は、第1回(令和5年1月14日実施)から第2回(令和5年2月14日実施)入札分までの合計数量

(単位:トン)

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①	落札残数量 ①-②
北海道	2,162	2,162	100.0%	0
青森	27,259	27,259	100.0%	0
岩手	3,488	3,488	100.0%	0
宮城	11,600	11,600	100.0%	0
秋田	21,572	21,572	100.0%	0
山形	21,291	20,591	96.7%	700
福島	27,050	21,985	81.3%	5,065
茨城	1,103	935	84.8%	168
栃木	7,602	6,123	80.5%	1,479
群馬	555	-	0.0%	555
埼玉	463	-	0.0%	463
千葉	3,985	514	12.9%	3,471
東京				
神奈川				
新潟	25,149	25,095	99.8%	54
富山	12,197	12,197	100.0%	0
石川	7,849	7,849	100.0%	0
福井	4,076	3,900	95.7%	176
山梨				
長野	1,446	346	23.9%	1,100
岐阜	435	-	0.0%	435
静岡	20	20	100.0%	0
愛知	846	846	100.0%	0
三重	270	270	100.0%	0
滋賀	1,342	1,342	100.0%	0

産地	買入予定数量 (優先枠) ①	落札数量 ②	落札率 ②/①	落札残数量 ①-②
京都				
大阪				
兵庫				
奈良				
和歌山				
鳥取	400	-	0.0%	400
島根	130	130	100.0%	0
岡山	977	846	86.6%	131
広島	20	20	100.0%	0
山口				
徳島	1,182	930	78.7%	252
香川				
愛媛				
高知	10	10	100.0%	0
福岡	264	-	0.0%	264
佐賀	220	100	45.5%	120
長崎	10	-	0.0%	10
熊本	247	247	100.0%	0
大分	94	94	100.0%	0
宮崎				
鹿児島				
県別優先枠計①	185,314	170,471	92.0%	14,843
一般枠②	22,686	17,453	76.9%	5,233
合計(①+②)	208,000	187,924	90.3%	20,076
うちCPTPP分		8,000		

令和 4 年度輸入実績と令和 5 年度輸入方針

MA米の輸入状況

- MA米の主な輸入先国は、米国、タイ、豪州、中国など。
- 国別の輸入数量は、国内における加工用の実需者のニーズ、輸出国の生産量及び作付品種の状況、輸出余力等を勘案しながら行う入札の結果として決定される。

○ MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 （令和5年2月22日 までの実績）
米国	358	356	358	362	359	359	359	376	365	359	360	360	345	192
タイ	332	345	241	281	351	332	344	375	264	316	306	322	314	358
中国	71	19	56	46	1	55	56	3	56	69	83	70	69	68
オーストラリア	－	40	71	64	41	14	1	7	74	14	0	－	27	40
その他	5	6	40	13	15	6	6	7	8	8	17	15	12	5
合計	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	767	663
（うち一般輸入）	655	725	658	656	700	754	734	685	655	701	681	699	743	649
（うちSBS輸入）※	100	37	100	100	61	12	29	73	100	59	77	60	21	12

※SBS輸入数量の単位は千実トン。
注1：各年度の輸入契約数量の推移。
注2：千実トンと千玄米トンのため合計は一致しない場合がある。
注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。
（参考）枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

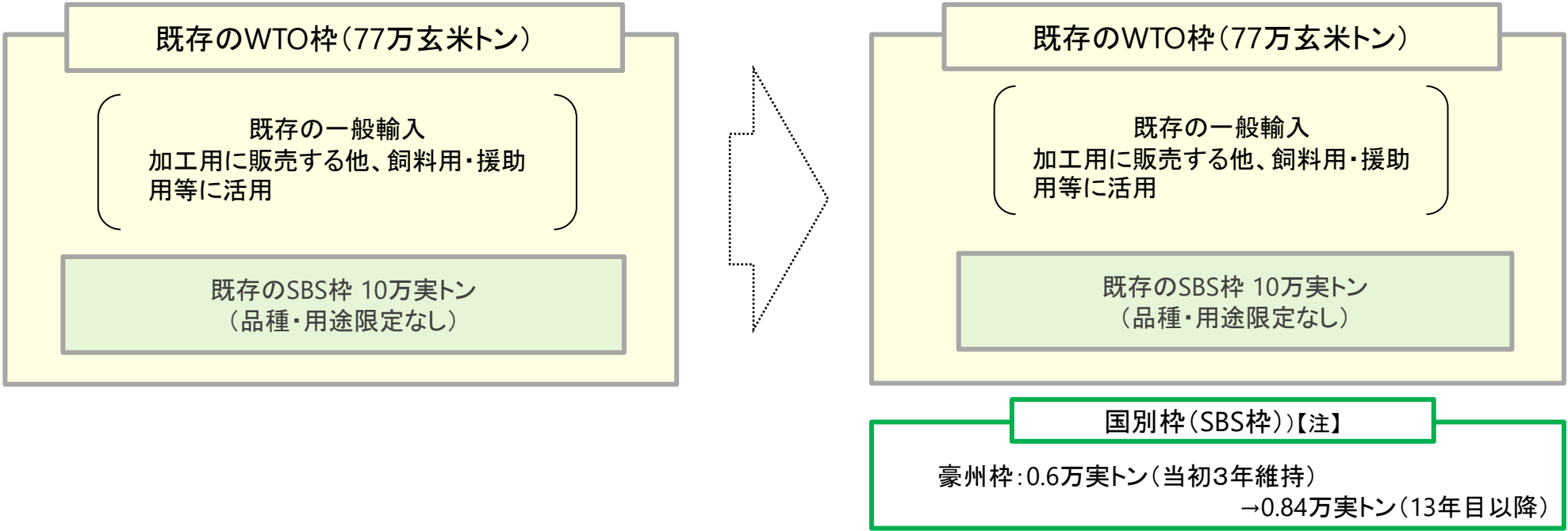
令和4年度のSBS米の輸入入札状況(ガット・ウルグアイラウンド農業合意によるMA米数量分(10万トン))

(単位:実トン)

	全体			丸米			碎米		
入札回数	輸入予定数量	応札数量	落札数量	輸入予定数量	応札数量	落札数量	輸入予定数量	応札数量	落札数量
第1回 (4年9月30日)	25,000	1,587	647	22,500	647	247	2,500	940	400
第2回 (4年10月21日)	25,000	1,722	1,422	22,500	822	522	2,500	900	900
第3回 (4年11月16日)	25,000	1,405	1,261	22,500	1,097	1,061	2,500	308	200
第4回 (4年12月14日)	25,000	1,596	1,560	22,500	888	852	2,500	708	708
第5回 (5年1月11日)	30,000	1,997	1,657	27,000	1,597	1,257	3,000	400	400
第6回 (5年1月30日)	30,000	2,528	2,528	27,000	2,080	2,080	3,000	448	448
第7回 (5年2月14日)	30,000	3,367	3,267	27,000	2,139	2,039	3,000	1,228	1,228
合計			12,342			8,058			4,284

TPP11におけるコメの豪州枠の運用

- TPP11においては、現行の国家貿易制度と、枠外税率(コメの場合341円/kg)を維持した上で、豪州にSBS方式の国別枠を設定。(コメと米粉等の国貿品目を対象として一体的に運用。)
- 国別枠の数量は、当初3年は6,000実トン、13年目以降は8,400実トン。入札は、毎年度、5月から2ヶ月ごとに年6回実施する。



注: 円滑な入札手続を行うため、透明性向上の観点から、SBSの運用方法の一部について、技術的な変更を実施。

○ TPP11豪州枠の年間枠数量及び輸入数量

(単位: 実トン)

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030以降
枠数量 (実トン)	2,000(※)	6,000	6,000	6,240	6,480	6,720	6,960	7,200	7,440	7,680	7,920	8,160	8,400
輸入数量	1,120	3,459	595	620	0 (2月末時点)								

※協定が2018年12月に発効したため、2018年度は6,000実トンを年度の残余の月数で按分した数量
注: 輸入数量は各年度の輸入契約数量の推移。